

- 2013/03/31 囲い込まれた自然と文化：宝塚
- 2013/03/30 ネパールでの PKO 訓練に日本も参加
- 2013/03/27 祝，ホリエモン仮釈放！
- 2013/03/26 スルケットの性労働者，約 300 人
- 2013/03/25 選管委員長と法務総裁と” Regmi Raj”
- 2013/03/23 4 大政党管理下の選挙管理内閣
- 2013/03/22 ミス・ネパール： コーラ帝国主義の完勝
- 2013/03/21 コングレス支持回復：ヒマール世論調査
- 2013/03/20 ネット版ライジングネパール，復活
- 2013/03/17 ネパールの交差点：信号機とロータリー
- 2013/03/15 陸自，フェイスブック上陸
- 2013/03/14 レグミ最高裁長官，暫定選挙管理内閣「議長」就任
- 2013/03/13 絞首刑を煽るインド民主主義：A. ロイ (9)
- 2013/03/12 絞首刑を煽るインド民主主義：A. ロイ (8)
- 2013/03/11 大統領の下での選挙： I. Pokharel
- 2013/03/10 絞首刑を煽るインド民主主義：A. ロイ (7)
- 2013/03/08 絞首刑を煽るインド民主主義：A. ロイ (6)
- 2013/03/07 絞首刑を煽るインド民主主義：A. ロイ (5)
- 2013/03/05 春期憲法大学講座
- 2013/03/03 絞首刑を煽るインド民主主義：A. ロイ (4)

囲い込まれた自然と文化：宝塚

宝塚に転居して一年，近隣の目もくらむ自然格差・文化格差に愕然たる思いだ。

宝塚は神戸・六甲山系の東山麓。かつては美しい里山・田園地帯であったのだろうが，容赦ない宅地開発で，いまや醜怪な現代都市に変貌している。

以前の比較的余裕のあった邸宅が相続で売却されると，跡地は分割され，3～4軒のマッチ箱住宅が建つ。あるいは，わがアパートのような，貧相な墓石型集合住宅となる。

このような新興住宅住民には，豊かな自然や文化は無縁だ。働き，食い，寝るだけ。貴族主義者のハンナ・アーレントは，「労働」を必然と消費に隷従する最下級の人間行為と喝破したが，私のような庶民アパート住民には，反論のしようもない。

かつて高度成長以前の日本社会では、そうではなかった。人々の多くは貧しかったが、下町でも農村でも時間はあふれ、様々な趣味や遊び、つまり多様な文化が栄えていた。美しい自然と多様な文化は、日本を訪れた外国人を痛く感動させた、日本古来の伝統であった。

いまの宝塚には、もはやそのような自然や文化はない。雑然とした必要と消費のための街に成り下がってしまった。

例外があるとすれば、それは金網と鉄格子で囲い込まれた広大なゴルフ場だけ。そこは別天地。花々が咲き乱れ、小鳥がさえずる美しい自然の中で、時間はゆったり流れ、優雅なゴルフ文化が享受されている。

現代資本主義は、富だけでなく、自然と文化をも囲い込む。現代型エンクロージャー！貧しくとも、自然と時間と文化を享受できた頃の方が、庶民は幸福であったのではないだろうか。



■切れ切れながらも、わずかに残る里道の桜並木。先人の風流が忍ばれる。金網の向こうはゴルフ場。



■現代の囲い込み：ゴルフ場

ゴルフ場



■貧乏人立ち入り禁止



■貧乏人のひがみ根性

谷川昌幸(C)

2013/03/31 23:12 カテゴリー: [社会](#), [経済](#), [文化](#) タグ: [アレント](#), [ゴルフ](#), [疎外](#), [遊び](#), [都市化](#), [豊かさ](#), [労働](#), [困り込み](#), [時間](#)

[ネパールでの PKO 訓練に日本も参加](#)

駐ネ米大使館によれば、「ビレンドラ平和活動訓練センター (BPOTC)」で3月25日～4月7日開催の「Shanti Prayas-2(平和活動-2)」訓練に、日本も参加している。日本側情報を探したが見当たらず、参加自衛隊員のランクや人数は不明。



■ Shanti Prayas シンボルマーク (BPOTC)

訓練は、米太平洋軍が主導、ネパール国軍が協力し、行われているようだ。参加総数 871 人（内ネパール 416 人）。インド軍も参加している。訓練には幹部スタッフ訓練と野外演習があり、日本は双方に参加。

BPOTC は、カトマンズの東方、パンチカルの高原（標高 942m）にある。1986 年設立。PKO 派遣要員を年 8000 人以上訓練している。この付近は何回か通ったことがあるが、広大な美しい訓練基地であった。



■ BPOTC (Google)

しかし、パンチカルはチベット（中国）国境のすぐ近く。敏感地帯にある。そこに米軍主導で、インド軍や日本軍（自衛隊）が、国連平和活動を名目に軍事訓練をする。中国メディアも「客観報道」をしているが、さて本心はどうだろうか？



■ 野外訓練 (BPOTC)

今回もそうだが、いまでは自衛隊員の海外派遣は日常茶飯事。ニュースにもならない。日本の軍事化は、着々と進んでいる。このまま行けば、憲法の「改正」、自衛隊の「国防軍」格上げも遠くはあるまい。

野口健氏も、かつて (2007/03/23) こう主張された。「今月末に自衛隊が停戦監視団としてネパール入りするが、武器を持たず大丈夫なのかと心配になる。せめて自身の安全を守る武器保有は認められるべきだと思うが。日本国内でも PKO や停戦監視団で現地に行く自衛官に対して「武装するべきではない」といった意見もあるが、「それならばあなた方が丸腰で行ってみろ」と言いたい。どれだけの恐怖か。」

(<http://www.noguchi-ken.com/M/2007/03/post-303.html>)

谷川昌幸(C)

2013/03/30 23:20 カテゴリー: [平和](#), [憲法](#) タグ: [自衛隊](#), [Panchkhal](#), [PKO](#), [海外派兵](#)

祝, ホリエモン仮釈放!

ホリエモン(堀江貴文氏)が、3月27日、仮釈放となった。まずは、めでたい。仮釈放メッセージを見ると、獄中ダイエット成功で、スマートな「超健康体」になられていた。メッセージ内容も、驚くほど謙虚で健康的。本心かなあ?



堀江貴文(Takafumi Horie) @takapon_jp

9時

今日午前7:40くらいに仮釈放になりました!皆様いろいろ収監中はお世話になりました。ありがとうございました。無事仮釈放(刑期の74%)を貰う事ができました。

■ ホリエモン Twitter

私は、ホリエモンを高く評価し、出所を心待ちにしていた。その筋の方々の出所も顔負けの、ド派手な「出所祝い」となるかと思っていたら、少なくとも今日のところは期待はずれ。しかし、ホリエモンは、こんなモンではないはずだ。脂ギラギラ不健康こそ、氏の魅力。きっと、出所でたちまちリバウンド、賭博バブル経済を手玉にとり、無節操マスコミをこづき回し、世間を楽しませてくれるにちがいない。ホリエモン出所、万歳！

【ホリエモン関連記事】

[ホリエモンの自立自尊とメディアの追従卑小](#)

[ネパールとホリエモンに学ぶ恐慌時代の生き方](#)

[ホリエモンの高貴さ、政財界の卑俗さ](#)

[ホリエモン・バブル破裂とネパールの生活再説](#)

[ホリエモンの偉さとネパールの生活再々説](#)

谷川昌幸(C)

2013/03/27 20:47 カテゴリー: [文化](#), [情報 IT](#), [社会](#) タグ: [ホリエモン](#), [バブル](#), [マスコミ](#), [賭博経済](#)

[スルケットの性労働者、約 300 人](#)

スルケット「社会意識向上センター」の調査によれば、スルケット郡内には性労働者(売春従事者)が約 300 人いる。失業と貧困が主な理由だという(Rising Nepal, Mar20, 2013)。一方、カトマンズの性労働者は3万人ともいわれている。こうした都市部の近現代的「性産業」との関係は、どうなっているのだろうか？

スルケット郡総人口：350,804 人(2011 年)

性従事者：約 300 人

出身：ほとんどがダリット

女性：164 人

十代：154 人

18 歳未満：4 人



2013/03/26 11:09 カテゴリー: [社会](#), [人権](#) タグ: [セックスワーカー](#), [ダリット](#), [性産業](#)

[選管委員長と法務総裁と” Regmi Raj”](#)

レグミ暫定内閣は、議会がなく、おまけに議長(首相)は、いわば出向中の最高裁長官だから、こわいものなし。その気になれば、何でもできる。24日には、二つの重要人事を、あっという間に決めた。

(1) 選挙管理委員会人事

- ・委員長 : Neel Kantha Uprety 前選管委員長代行
- ・委員 : Dolakh Bahadur Gurung 前選管委員
- ・委員 : Ayodhi Prasad Yadav 前選管委員
- ・委員 : Ila Sharma ジャーナリスト, UNDP コンサルタント
- ・委員 : Rambhakta PB Thakur 前外務省儀典局長, 元駐エジプト大使

この5人のうち、3人は前委員長・委員であり、暫定憲法の再任禁止規定(128条3 & 7)に抵触する恐れがあるが、出向最高裁長官が首相だから、そんなことは何の問題にもならない。スウーと通してしまった。



Neel Kantha Uprety, Chief Election Commissioner of Nepal

Mr. Neel Kantha Uprety, is the Chief Election Commissioner of Nepal. Mr. Uprety has immensely contributed in accomplishing the challenging task of conducting

Constituent Assembly Election in the post conflict environment of Nepal in the year 2008. Neel has been in the electoral field for the last 18 years and has been involved in implementing nine Parliamentary and Local elections in Nepal. For the implementation of Presidential, Parliamentary and Provincial Council Elections in Afghanistan, the United Nations had assigned Mr. Uprety to work as a Senior Election Coordinator in the year 2004 and 2005. Earlier he had worked as a Senior Electoral Advisor to the Election Commission of Nepal. He was the architect of voters' registration system, which converted the conventional electoral roll preparation system into computer based integrated voters' database system. (ICPS)

(2) 法務総裁人事

法務総裁人事も同じこと。レグミ (Khil Raj Regmi) 議長(首相)は、前法務副総裁 Drona Raj Regmi 氏を、法務総裁に任命した。親族である。

さらにレグミ議長(首相)は、DR. レグミ法務総裁の息子の SR. レグミ氏を首相官邸個人秘書に任命した。ヒマラヤンタイムズは、こう皮肉っている。

Raj Regmi=Regmi Raj?

(ラジ・レグミ=レグミ支配・体制・王国?)

コネ人事は日本でもどこでもあるが、特にネパールの「アフノマンチェ(身内優遇)」は有名。しかし、例外状況において国家危機管理を委任された者が、アフノマンチェを疑われるようなことをやったら、おしまいだ。

(3) 本物のプロフェッショナルを

ネパールで優先すべきは、やはり「近代化」であって「現代化」ではないのではないか。Beruf(天職)に奉仕するプロフェッショナルな本物のテクノクラート、本物のエリートなくして、ネパールの安定・発展は難しいであろう。

谷川昌幸(C)

2013/03/25 10:48 カテゴリー: [憲法](#), [政治](#) タグ: [アフノマンチェ](#), [レグミ](#), [Beruf](#), [天職](#), [暫定内閣](#), [権力分立](#), [法務総裁](#)

[4 大政党管理下の選挙管理内閣](#)

レグミ暫定内閣議長が、3月18日、8大臣を追加指名し、組閣は完了した。内閣議長(首相)は最高裁長官、10大臣は全員が元官僚。政治家を完全に排除した、珍奇な政府である。

レグミ議長は、これからこの暫定内閣を率い、行政一般に加え、選管委員長をはじめとする主要機関人事、暫定憲法の選挙関連条文改正などの重要な任務を遂行していくことになる。

この暫定内閣は、形式的には「テクノクラート支配」、実質的には4大政党による「4党独裁」である。4党が牛耳る「高レベル政治委員会」の議長は、マオイストのプラチャンダ議長。プラチャンダ議長がレグミ議長を操ることになりかねない。

いずれにせよ、ここにはもはや民主主義の残り香すらない。Big Four(4大政党)支配か、あるいは官僚が頑張ればテクノクラート支配となる。政治破綻寸前の国家危機管理内閣とはいえ、非民主的な談合政治となることは避けられないだろう。

●[レグミ暫定選挙管理内閣名簿\(2013年3月23日現在\)](#)



■今度こそ、この美しい予定調和が実現するのだろうか？ (選管 HP より)

谷川昌幸(C)

2013/03/23 18:04 カテゴリー: [選挙](#), [政党](#) タグ: [選挙管理内閣](#), [Prachanda](#), [Regmi](#), [technocracy](#), [権力分立](#)

[ミス・ネパール: コーラ帝国主義の完勝](#)

ネパールのミス好きは、世界に冠たるもの。ミス、ミスだらけとあってよいが、それらの中でも最も有名な、ミス中のミスは、おそらく THT([The Hidden Treasure](#))主催の「ミスネパール」であろう。(ミスコンについては下欄タグ「ミスコン」クリック)

そのミスネパール最終審査が、この3月20日、権威ある「ネパール学芸会館」において華々しく開催され、美事、イシャニ・シュレスタさんが「2013年度ミスネパール」の栄冠を獲得された。もちろん、それにつづく「ミスネパール地球2013」も「ミスネパール国際」も、そして他の諸々の「ミス〇〇」も、みな文句なしに美しい。



■ ミスネパール表彰式

(THT-HP より)

今年のミスネパール・コンテストは、ファンタがメイン・スポンサー。コカコーラ社は、他にも「コカコーラ・フットボールカップ」など、多くのイベントを協賛している。大攻勢といってもよい。むしろコカコーラは営利目的の私企業であり宣伝活動をするのは当然だが、それにしても、最近は少々度が過ぎるのではないか。特に露骨な「女」の利用は、あまりにも品がない。

いまや、時代は激変した。マオイストは、かつて人民の友たりし頃、コーラを帝国主義の先兵とみなし、ネパール事業所を攻撃した。ところが、少し優勢になると**コーラ帝国主義**批判は沙汰やみとなり、いまではコーラ片手にミスコンを観ていても、性搾取者とも帝国主義者とも非難される恐れはなくなった。マオイストも、コーラを飲んで、スカッと爽やかになったのだろうか？

「ファンタ THT ミスネパール 2013」は、コーラ帝国主義完勝の象徴といってもよいだろう。



■ファンタに飲まれる3美女（THT-HPより）

谷川昌幸(C)

2013/03/22 14:10 カテゴリー: [マオイスト](#), [文化](#) タグ: [コーラ帝国主義](#), [ミスコン](#), [性差別](#)

[コングレス支持回復：ヒマール世論調査](#)

ヒマールメディアが、2013年世論調査の概要を発表した。

調査期間：2月中旬1週間

調査場所：全国38郡

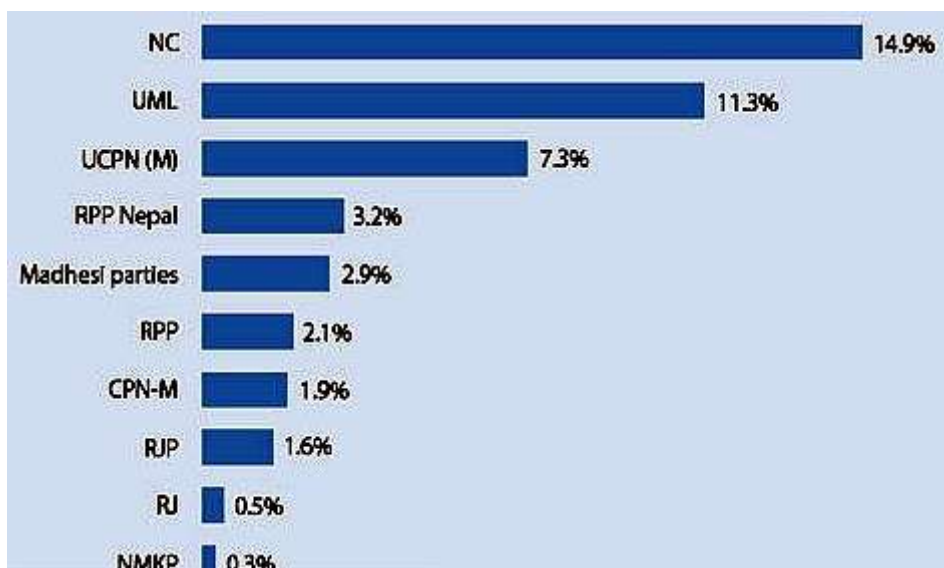
調査対象：3508人

調査方法：面接調査

政党支持率は、小差ながらコングレス（NC）が1位、以下、UML、UCPN-M、RPP、マデシ諸党となった。CPN-M（バイダ派マオイスト）は7位。これに対し、RPPは2派を合わせると、マデシ諸党よりもかなり大きい第4勢力となる。

首相候補でも、NCはスシル・コイララ党首が第1。UCPNは、バブラム・バタライ前首相が2位、プラチャンダ党首が5位と、かつての勢いはない。

調査の精度ははっきりしないが、このままいけばNCが勝利しそうな形勢だ。RPPも、カマル・タパ党首が首相候補第4位であり、そこそこ勢力を回復しそうである。



■ 政党支持率 (Nepali Times, Mar. 21, 2013)

谷川昌幸(C)

2013/03/21 13:40 カテゴリー: [選挙](#), [政党](#) タグ: [CONGRESS党](#), [マオイスト](#), [Kamal Thapa](#), [RPP](#), [Sushil Koirala](#), [世論調査](#)

[ネット版ライジングネパール, 復活](#)

ゴルカパトラ／ライジングネパールのHP版は、長らく更新されていなかった。たぶん半年以上。理由不明。これはこれで、いかにもネパールらしく、好ましい。

それが、面目一新、めでたく再開された。とくに e-paper は読みやすい。ネット対応1周遅れの朝日デジタルなど、足下にも及ばない。

日本は、ネパールにも、どんどん追い抜かれていく。うれしいような、さみしいような……。



■ 旭日ネパールに兜

で対抗？

谷川昌幸(C)

2013/03/20 19:22 カテゴリー: [情報 IT](#), [文化](#) タグ: [Gorkha Patra](#), [Rising Nepal](#)

[ネパールの交差点：信号機とロータリー](#)

ネパールに行くたびに不思議に思うのが、交通信号機である。カトマンズ盆地の主要交差点には、日本などの援助で信号機が設置されているが、それらのほとんどすべてが消灯か点滅であり、赤・黄・青と常時正常に機能しているものは、まず見かけない。日本の常識で考えると、交通信号は最重要インフラであり、信号機があるのに消灯であれば事故多発、人命に関わる一大事である。ところが、カトマンズでは、最新式信号機が設置されていて、たいてい消灯。これは不思議。なぜだろう？

- [1. 信号機の技術的不適正](#)
- [2. 「人の支配」としてのロータリー式](#)
- [3. 「ババ事件」の教訓](#)
- [4. ネパール文化から学ぶ](#)



([ネパールの視覚障害者を支える会『会報』第35号, 2013年3月, 3-4頁](#))

谷川昌幸(C)

2013/03/17 09:58 カテゴリー: [社会](#), [政治](#), [文化](#) タグ: [ロータリー](#), [法の支配](#), [交差点](#), [人の支配](#), [信号機](#)

[陸自, フェイスブック上陸](#)

「国防軍」への格上げの前祝いとして、陸上自衛隊が、フェイスブック上陸作戦を敢行した。これで、正々堂々、顔 (Face) が見える「平和貢献」組織として登録 (Book) されたことになる。まずは、おめでとう。

これまで自衛隊は、「暴力装置」などと恐れられ、敬遠されがちだったが、これからの「美しい国・日本」では、古臭くて美しくない「暴力装置」などといった表現は死語となり、自衛隊=国防軍は、「愛する人、愛する日本」のための「平和装置」という適切な表現をもって呼ばれ、国民すべてから敬愛されることになるであろう。

■ [陸上自衛隊公式フェイスブック](#)



陸上自衛隊 Japan Ground Self-Defense Force

ミッション 「守りたい人がいる」

「人」とは、**愛する**家族であり、ふれあう地域の人々であり、我が国の**美しい**自然や文化をも表しています。 わたくしたちは、この「守りたい人がいる」を通じて、**愛する**人、**愛する**日本のために「事に臨んでは身の危険を顧みず任務に邁進する」という陸上自衛隊の存在の原点を明らかにし、逞しく頼りがいのある陸上自衛隊を目指します。

説明 陸上自衛隊の公式 Facebook ページです。

この場を通じて、陸上自衛隊に関する様々な情報を発信していきたいと思います。



谷川昌幸(C)

2013/03/15 19:09 カテゴリー: [平和](#), [憲法](#) タグ: [美しい国](#), [自衛隊](#), [国防軍](#), [安倍晋三](#), [平和貢献](#), [暴力装置](#)

[レグミ最高裁長官, 暫定選挙管理内閣「議長」就任](#)

3月13日, UCPN, NC, UML, UDMT の主要4党が, 最高裁長官(Khil Raj Regmi)の下で制憲議会選挙を実施することに合意した。主な合意内容は, 以下の通り。

(1) 暫定選挙管理内閣

(a)内閣の長は, 「首相」ではなく, 「議長」とする。「議長」には, レグミ最高裁長官を任命する。制憲議会選挙終了後, レグミ氏は「議長」を辞任し, 最高裁長官に復職する。

(b)大臣は11名とし, 高位官職経験者の中から選任する。

(2) 選挙実施日

制憲議会選挙は, 6月までに実施する。もし6月までに実施できない場合は, 12月15日までに, 選挙実施日を決定する。

(3) 制憲議会の構成

- ・定数: 491 (小選挙区240, 比例制240, 内閣指名11)
(旧制憲議会: 定数601 [小選挙区240, 比例制335, 首相指名26])
- ・任期: 無期 (任期規定なし)
(旧制憲議会任期: 2年)

(4) 就任宣誓

レグミ最高裁長官の暫定選挙管理内閣「議長」就任宣誓は, 14日午前9時からの予定。



■レグミ最高裁長官／暫定内閣議長（最高裁 HP）

——以上が、13日の4党合意の骨子だが、いやはや泥縄というか、面妖というか、何ともいいようのないヒドイ内容だ。

これは、事実上、政治家の任務放棄宣言・降伏宣言だから、統治放棄された国家の管理を最高裁判所(司法)にお願いするのは、やむを得ない。[（先述のように、本来なら大統領の下での選挙とすべきではあるが。）](#)

また、政治家が自ら統治能力欠如を認めたのだから、官僚(行政)に国家運営を丸投げするのも、やむをえない。**テクノクラート支配**、**専門家支配**だが、素人の政治家に統治能力がなかったのだから、いくらみっともなくとも、自業自得、いたしかたあるまい。

しかし、この丸投げには、暫定といいつつも、とんでもないおまけがついている。6月までに選挙ができなければ、12月15日までに選挙実施日を決定すればよい。結局、いつ選挙ができるのか、実際には、まったくわからない。

さらに、かりに、めでたく選挙ができ、新しい制憲議会が成立しても、この議会には任期の規定がない。**無期限議会！** いつまでも、永遠に存続可能なのだ。これでは、正式の憲法がいつ制定されるか、まったく見当もつかない。

このままでは、統治の正統性が限りなく蚕食されていき、「法の支配」はますます衰退し、ネパールは底なしの無政府状態に沈み込んでいくであろう。

◆暫定選挙管理内閣成立

この記事を書いている間に、レグミ最高裁長官が「議長」就任宣誓を行い、レグミ氏を「議長」とする暫定選挙管理内閣が正式に発足した。

谷川昌幸(C)

2013/03/14 14:38 カテゴリー: [選挙](#), [司法](#), [憲法](#), [政治](#), [民主主義](#) タグ: [テクノクラート支配](#), [制憲議会](#), [最高裁判所](#), [権力分立](#), [正統性](#)

[絞首刑を煽るインド民主主義 : A. ロイ \(9\)](#)

8. 対テロ戦争の悲惨と愚劣

(1) 対テロ戦争のためのアフザル処刑

アフザル裁判が、彼の出身地カシミールの紛争と密接に関係していることは、いうまでもない。ロイによれば、カシミールは20年以上にわたってインド本国に軍事的に占領され、何万ものカシミール人が拘置所、刑務所、仕組まれた（みせかけの）遭遇戦などで殺されてきた。アフザル処刑は、そのカシミール紛争を新たな次元に引き込むものだという。

「アフザル・グル処刑は、これまで民主主義を一度も実体験したことのない若者たちに、リングサイド特等席でインド民主主義の威厳と壮麗な働きを観る機会を与えてくれた。カシミールの若者たちは、法輪が回るのを観た(*1)。彼らは、インド民主主義の厳かな白い諸制度のすべてを観た(*2)。政府、警察、裁判所、政党と、そしてそう、あのメディアが共謀して、一人の男を縛り首にした。公正と彼らの信じない裁判により、一人のカシミール人が処刑されたのだ。」(Roy: ii)

*1 法輪：国旗中央のアショーカ・チャクラ。空と海。

*2 白い諸制度：国旗上部のサフラン色はヒンドゥー教、下部の緑色はイスラム教、そして中間の白色は2宗教の和解を象徴するとされている。「白い」諸制度とは、「和解と真実と平和」の諸制度ということ。



■インド国旗

(2) カシミールとアフザルとインド民主主義

カシミールは、ロイによれば、ミリタント、治安部隊、印パ越境者、スパイ、密告者、印パ情報機関、人権活動家、NGO、地下資金、密売武器、等々の巣窟である。「これらの物事や人々を区別する明確な線は必ずしも無い。誰が誰のために働いているのか知ることとは、容易ではない。」(Roy: iv) ロイは、次のように述べている。

「カシミールでは、真実は、他の何よりも危険といってもよい。深く掘れば掘るほど、悪くなる。穴の底には、アフザルの語る SOG(Special Operation Group 特殊作戦部隊) や STF(State Task Force 州警察特任部隊) がいる。これらは、カシミールのインド治安機関の中でも最も冷酷で、無規律で、恐ろしい組織である。より正規の他の部隊とは異なり、これらは、警官、投降ミリタント、裏切り者、そして他のあらゆる犯罪者たちがうごめくグレーゾーンで行動する。それらは、カシミールの人々、特に地方の人々を食い物にし、苦しめる。その最大の犠牲者が、1990年代初めの無統制な蜂起の際、立ち上がって抵抗したのち投降し、普通の生活に戻ろうとしている何千というカシミール青年たちである。」(Roy: iv)

アフザルも、1989年、20歳の時、パキスタンに越境したが、本格的な訓練は受けることなく舞い戻り、デリー大学に入学した。ジューラーニ講師とも、そこで知り合いになったらしい。1993年、ミリタントとしての活動経歴はなかったが、自ら国境治安部隊(BSF)に投降した。

「あまりにも皮肉なことに、アフザルの悪夢は、ここに始まる。投降した彼は罪にとわれ、人生は地獄と化した。もしカシミールの青年たちが、アフザルの境遇を見てそこから教訓を引き出したとしても、誰も非難はできまい——武器を捨てて投降し、インド国家が差し出す、ありとあらゆる残虐行為に身をゆだねるのは、狂気の沙汰だ、という教訓である。

ムハンマド・アフザルの境遇はカシミール人の境遇でもあり、カシミール人を怒らせた。アフザルの身に起こったことは、何千ものカシミールの若者たちとその家族にも起こりえたことであり、起こりつつあることであり、そして事実起こってきたことなのだ。

違いがあるとすれば、彼らの場合、共同尋問センター、軍キャンプそして警察署の内部の薄汚い場所で、それが起こることだけだった——そこで、彼らは火を押しつけられ、殴られ、電気を流され、恐喝され、そして殺される。死体はトラックから放り捨てられ、通行人に発見させる。

アフザルの場合、中世の舞台の一場面であるかのように、それは行われている。国家を舞台に、白昼堂々と、『公正な裁判』による法的承認の下に、『自由な報道』のうつろな利益のために、そして、いわゆる民主主義の威厳と儀式のために、それは行われているのだ。

もしアフザルが縛り首にされたら、問われるべき真の問題への答えを、私たちは決して知ることができなくなってしまうだろう。インド議会を襲撃したのは、誰か？ ラシュカレ・トイバだったのか？ ジェイシェ・モハンマドだったのか？ あるいは、われわれすべてがその中で生き、美しくも複雑であり、また痛みを伴うわれわれ自身の仕方で愛し憎んでいるこの国の奥底の、秘密の、とある場所に、その答えはあるのだろうか？ ……

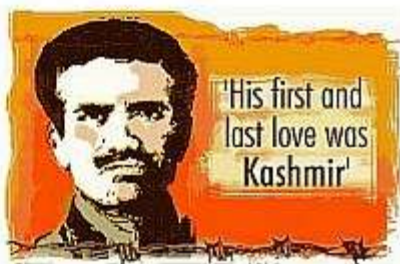
実際には何が起こったのかを知ることなく、モハンマド・アフザルを縛り首にするのは、誤りである。すぐ忘れられるようなことではない。許されるべきことでもない。決して、忘れられるべきでも許されるべきでもないこと、である。」(Roy: iv)

Petition for the Proper Burial of Shaheed Maqbool Bhatt

Posted on February 13, 2012

[CLICK HERE TO SIGN THE PETITION](#)

The Indian government thought that by hanging Shaheed Maqbool Bhat, they had silenced a lone voice of freedom for Kashmir. If they only knew that at that moment when Shaheed Maqbool Bhat raised his head in honor and closed his eyes in satisfaction as the noose of the gallows of Tihar jail were tightened, his victorious spirit was soaring over the nation of Kashmir and spreading out from generation to generation.



■ カシミール解放戦

線 HP (Feb. 13, 2012)

谷川昌幸(C)

2013/03/13 15:46 カテゴリー: [インド](#), [平和](#), [民族](#), [民主主義](#) タグ: [カシミール](#), [テロ](#), [ミリタント](#), [絞首刑](#), [Roy](#)

[絞首刑を煽るインド民主主義 : A. ロイ \(8\)](#)

7. 「社会の集会的良心」と状況証拠による死刑判決

(1) スケープゴートとしてのアフザル

2001年国会襲撃事件の容疑者4人のうち、「首謀者(mastermind)」のデリー大学講師ジーラーニは高裁で無罪となったにもかかわらず、アフザルは最高裁でも死刑判決を受け、2013年2月9日絞首刑が執行されてしまった。なぜだろうか？

アフザルは自身は、先述のように、対テロ戦争を叫ぶ権力により「スケープゴート」にされてしまったと考える。ロイも、同じ見方だ。ロイによれば、アフザルの絞首刑は、得体の知れない権力が操るマスコミによって煽られた人民の意思の要求であり、それは「世界最大の民主主義」の輝かしい勝利であった。



■絞首刑執行の報道 (You

Tube [NDTV, Feb. 9, 2013])

(2) 状況証拠による死刑判決

最高裁は、ジーラーニを無罪とした高裁判決を支持し、またアフザルの自白の信憑性についてもいくつか留保したにもかかわらず、国会襲撃をジェイシェ・ムハンマドとラシュカレ・タイバのテロ攻撃とする事件の基本構図は変えなかった。いや、おそらく変えられなかったのだろう。そのため、アフザル有罪を導き出すため、状況証拠に依存するという無理をあえて強行することになった。判決は、こう述べている。

「以上に詳細に述べた諸状況から、上訴人アフザルが死亡したテロリストたちと協力していたことは明白である。議事堂攻撃を実行するため彼らが行ったほぼすべてのことにおいて、アフザルは彼らに協力した。アフザルは、死亡したテロリストたち、特にムハンマドと密接に連絡を取っていた。アフザルは、襲撃そのものには参加しなかったが、悪魔的使命の遂行のため、あらゆることをした。ほとんどの陰謀がそうであるように、陰謀罪を構成する共謀の直接的証拠はないし、またあり得ないだろう。しかしながら、様々な状況を集め比較検証するならば、それらの状況が、アフザル被告と殺された『フェダイーン』テロリストたちとの共謀共犯を示していることに疑いの余地はない。諸状

況は総体としてみられるべきであり、そう見るならば、アフザルが陰謀の当事者であり、陰謀の遂行のための様々な行為において積極的な役割を果たしたことに合理的な疑いを挟む余地はない、と判断される。…それゆえ、アフザルがこの重大な陰謀犯罪の共犯者であると断定するに必要十分な状況証拠がある、とわれわれは判断する。」(18 CASE OF MOHM. aFZAL (a1))



■ 自白会見 (You Tube [ABP News, Dec. 20, 2001])

(3) メディアと「社会の集会的良心」

最高裁が、自白の信憑性を一部留保しつつも、状況証拠により死刑判決を下さざるをえなかったのは、おそらく判決の中で自ら引き合いに出した「社会の集会的良心 (the collective conscience of the society)」のためであろう。

「この事件は、重大な被害をもたらし、全国を震撼させた。社会の集会的良心は、襲撃犯に死刑を科すことによるのみ満足させられるであろう。」

ここでいう「良心」は、形而上学的な倫理ではなく、実際には、マスコミの作り出す「国民世論」である。要するに、アフザルを縛り首にしなければ、世間が納得しないということ。このつくられた世論を、ロイは、様々な視角から厳しく批判している。

「もし世論調査、読者投稿、そしてテレビ出演視聴者の声がインド世論を正しく反映しているとするなら、リンチ(私刑)を求める大衆が刻々増大していることになる。。インド市民の圧倒的多数が、この先数年間、毎日毎日、週末も含め、モハンマド・アフザルの縛り首をみたいと願っているかのようだ。」(Roy: iv)

「あわれなことに、熱狂の只中で、アフザルは個人としての権利、一人の生きている人間としての権利を、剥奪されてしまったように見える。彼は、あらゆる人々の、すなわちナショナリスト、分離主義者、死刑廃止活動家らの道具となった。彼は、インド最大の極悪人とされ、またカシミールの偉大な英雄にもされたのである。」(Roy: iv)

こうしてアフザルは縛り首にされてしまった。処刑の通知は、処刑後配達され、妻子はアフザルとの最後の面会すらできなかった。しかも、遺体は妻子に引き渡されず、ティハール刑務所敷地内に埋められたため、葬儀もできなかった。遺体を引き渡すと、カシミールで聖者扱いされ、葬儀が反政府活動の引き金になることを怖れたからである。

その一方、処刑後、テレビ局は「全インド反テロ戦線」議長や襲撃で殺された警備員の妻らを番組に出演させ、処刑を歓迎させた。ロイは、こう批判する。

「夫を撃ち殺した犯人らは、その場で、そのとき殺されたのだ、と誰も妻たちになぜ告げないのだろうか？ 襲撃を計画したのが何者か、私たちにはまだ分からず、当然、彼らは法廷に一度も立たされてはいない。誰も、このことを彼女らになぜ告げないのだろうか？」(Roy: ii)

(4)インド民主主義の威厳と矮小

「これらすべてを考え合わせると、12月13日の議会襲撃についての奇妙で非情で邪悪きわまりない説明は、十二分に用心深く取り扱われなければならないであろう。それは、世界最大の『民主主義』が実際にはどのようなものなのかを、如実に示している。」(Roy: iv)

谷川昌幸(C)

2013/03/12 18:40 カテゴリー: [インド](#), [民主主義](#), [人権](#) タグ: [メディア](#), [状況証拠](#), [Roy](#), [死刑](#), [世論](#)

[大統領の下での選挙: I. Pokharel](#)

共産党 UML のイシュワル・ポカレル書記長が、大統領の下での選挙実施を提案した。正論である。私も、この案が最善であると、提案してきた。

* [ガルトゥング提案の観念性と危険性](#)など

UML を含め主要 4 政党は、最高裁長官を選挙管理内閣の首相として選挙をすることに、ほぼ合意している。しかし、これはいわば「破産国家」の管財人、ネパールが「国家破綻」してしまった場合の最後の手段であろう。

しかしながら、現在のネパールにはまだ大統領が残っており、憲法的には完全な正統性を保持している。暫定憲法によれば――

- 大統領は、国家の元首である(36A(2))
- 大統領は、新憲法制定まで在職する(36C)
- 大統領は、憲法施行の困難が生じたときは、内閣の助言に基づき、必要な命令を発し、その困難を除去することができる。(158)

この憲法規定を見れば、現在の状況下では、大統領が選挙実施を管理するのが最善であることは明白である。なぜ憲法上正統な大統領が現に存在するのに、無理をして最高裁長官を首相にしようとするのか、よく分からない。何のために大統領職をつくったのだろう？

【参照】[▼ポカレル前副首相講演：憲法政治学研究会](#) [▼ポカレル前副首相の長崎講演会 \(1/28\) 記事](#)

谷川昌幸(C)

2013/03/11 11:15 カテゴリー: [選挙](#), [憲法](#) タグ: [Pokharel](#), [大統領](#), [最高裁長官](#), [権力分立](#)

[絞首刑を煽るインド民主主義 : A. ロイ \(7\)](#)

6. アフザルの自白強制

(1) 逮捕時の状況

アフザルは、警察発表では、ジラーニ自供に基づき、12月15日、スリラナガルにおいて、シャウカトの妻所有のトラックでシャウカトと共に逃亡しようとしているところを、スリラナガル警察に逮捕され、このときジェイシェ・モハメドの中心人物 Ghazi Baba に渡す予定のパソコン、およびノキア携帯、100万ルピーなどを押収された。このパソコンには議会襲撃用の情報が記録されており、携帯SIMには襲撃実行犯らとの通信記録が残っていたとされる。

しかし、アフザルによれば、逮捕はバス停においてであり、そこでは何も押収されなかった。また、あとで押収されたパソコンやSIMは、押収後も封印されないままであり、不自然なアクセスの痕跡がいくつも残っていた。警察発表は、逮捕時の状況からして、不自然といわざるをえない。

(2) 自白強制

それ以上に問題なのが、自白。逮捕されたアフザルは、デリー警察に移送され、激しい

拷問と親族を人質にした様々な脅迫により、襲撃事件の細部にまで及ぶ詳細な自白をさせられた。12月20日には、マスコミの前で「自白」を強制され、翌21日には正式の自白調書に署名させられた。アフザルは、S.クマール弁護士宛書簡で、こう述べている。

「スリナガルのバス停で逮捕され、特任部隊 (STF) 本部に連行され、そこから特別警察と STF が私をデリーに移送した。スリナガルのパロムボラ警察署で、私の持ち物はすべて没収され、それから彼らに殴られ、そして、もし真実を誰かに話すと妻も家族もひどい目に遭わせると脅迫された。私の弟のヒララ・アフマド・グルさえも令状なしで警察に連行され、2～3ヶ月も勾留された。これは、ACP のラジビール・シンから聞いて初めて知ったことだ。特捜警察は、もし警察のいうとおり話せば、家族を痛めつけたりしないと私にいい、また、私の容疑を軽くし、しばらくすれば釈放してやる、という偽りの約束もした。私にとって、最も大切なのは、家族の安全だった。私には、STF が人びとを、すなわちカシミールの人びとを、どのようにして殺すか、また、彼らが拘置所で殺したあと、どのようにして消してしまうかが、この7年間の経験からよく分かっている。」(“Letter to His Lawyer”)

「[12月20日の] 夕方、ラジビール・シンが、家族と話がしたいか、と私に話しかけた。はい、と私は答えた。そして、私は妻と電話で話した。電話が終わると、シンは、妻と家族に生きていてほしいなら、あらゆるところで彼らに協力せよ、と私にいった。彼らは、私をデリーの様々な場所に連れて行った。それらは、ムハンマドが様々なものを入手したところだった。彼らは、私をカシミールに連れて行ったが、そこでは何もせず戻ってきた。そして、彼らは私に200～300枚の白紙に署名させた。」(Ibid)

(3) 憲法における自白強制の禁止

このような自白強制については、ベテラン記者の D. S. ジャーも、次のように批判している。

「警察は、自分を自分の法としてしまった…。警察は、まず逮捕し、そのあとで自白を絞り出せばよいと信じている。…。これが、われらがかつて誇りにした民主主義のいまの素顔である。」(N. Mukherji, “The Media and December 13,” *Outlook*, Sep. 30, 2004)

自白強制は、むろんインド憲法でも、日本国憲法と同様、禁止されている。

インド憲法第20条(3) 「犯罪の訴追を受けた者は、自己に不利益な証人となることを強制されない。」

日本国憲法第 38 条 「(1)何人も、自己に不利益な供述を強要されない。(2)強制、拷問若しくは脅迫による自白又は不当に長く抑留若しくは拘禁された後の自白は、これを証拠とすることができない。(3)何人も、自己に不利益な唯一の証拠が本人の自白である場合には、有罪とされ、又は刑罰を科せられない。」

しかし、強引な自白強制は、特にテロ容疑者については頻発している。この点については、Human Rights Watch などが厳しく批判している通りである。

Human Rights Watch, *The Anti-Nationals: Arbitrary Detention and Torture of Terrorism Suspects in India*, Feb. 2, 2011

(4) 弁護される権利の否定

それでも、もしアフザルにまともな弁護士がついておれば、あまりにもムチャな自白は法廷で最初から証拠として採用されなかったであろう。

ところが、驚くべきことに、アフザルは、事実上、弁護士による弁護を受けなかった。裁判所は、アフザルの希望を認めず、自ら若い弁護士を選任し、アフザルにつけた。ところが、この弁護士は、拘置所のアフザルと一度も面会せず、アフザルのための証人を一人も呼ばず、検察側の証人に対しては一度も反対尋問を行わなかった。

「ティハール刑務所の厳戒区域に収容されていたため、一週間は、弁護士など外部の人々と連絡することは困難であった。そのようなとき、インディアン・エクスプレス紙をみると、私の弁護士が私のために高裁に次のような申し立てをしたというニュースが出ていた。私(アフザル)は、死刑を受け入れるが、ただ一つ、死の苦痛を軽減するため縛り首による死刑ではなく、強力な致死性薬物の注射による死刑への変更を要望したい。このような偽りの申し立ては、私は断じて認めない。それは、私に知らせることも同意を得ることもなく、実際には、私の弁護士が自分で勝手に申し立てたことであり、私の上訴そのものを嘲笑し無駄骨とするものに他ならない。」(“Letter to All India Defence Committee”)

(5) 最高裁判決文の曖昧さ

以上は、アフザル被告自身の申し立てであり、そのまま受け取ることは、むろんできない。自白に関する最高裁の判断について、ロイは証拠採用を留保したと解釈しているが、P. V. Reddi と P. P. Naolekar は、「最高裁は『[被告側の] そのような主張に真実はない』と断定した」と解釈している。最高裁の判決文は、こうなっている。

「この [弁護されなかった] という申し立ては、真実ではない。事実審(第一審)弁護士は、アフザン被告のため効果的な法的支援をするため最善の努力をした。… 弁護人非難は、控訴段階で持ち出されたあと知恵と考えられる」(18(A1) Case of MOHD. Afzal)

「警察は、熱意のあまりメディア会見を開き、弁護人から、その公開方法について厳しい指摘を受けた。… [しかしながら] この警察の誤った方法は、検察側にも被告側にも、有利にも不利にもならない、と考えられる。」(Ibid)

「アフザルが自白を否定する諸根拠は、首尾一貫していない、と判断される。アフザルは2002年7月2日付申立書において、… 上述のように述べたといいながら、他方では、白紙に署名したと述べている。このいわゆる矛盾が、自白の真実性と任意性にかかわるとは、われわれは考えない。われわれは、弁護側申し立ての中の矛盾を根拠として事件を組み立てるよりも、むしろそのような主張を否定する一方、被告が語ったことの内容そのものを見ていかなければならない。」(Ibid)

この最高裁判決文は、持って回った表現であり、わかりにくい。ロイがいうように、いくつか重要な留保をしているが、自白そのものの証拠能力は、事実上、認めているように考えられる。

しかしながら、テロ容疑で逮捕されたカシミール人の処遇については、アフザルやロイの主張の方が、最高裁の形式的な判決文よりも、はるかに説得力があるように感じられる。アフザルの自白調書は、おそらく厳重に警戒隔離された拘置所内で、弁護士の支援も得られないまま、拷問と家族を人質とした脅迫の下で作成されたのだろう。細部まで異様なまでに詳しく記述された自白調書、そのようなものが信用できるはずがない。

【参考】

日本国憲法第37条【刑事被告人の権利】 1 すべて刑事事件においては、被告人は、公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利を有する。

2 刑事被告人は、すべての証人に対して審問する機会を十分に与へられ、又、公費で自己のために強制的な手続により証人を求める権利を有する。

3 刑事被告人は、いかなる場合にも、資格を有する弁護人を依頼することができる。被告人が自らこれを依頼することができないときは、国でこれを附する。



■カシミールの刑務所(同 HP より)

谷川昌幸(C)

2013/03/10 20:41 カテゴリー: [インド](#), [憲法](#), [民主主義](#), [人権](#) タグ: [カシミール](#), [テロ](#), [自白](#), [Roy](#), [弁護](#), [拷問](#)

[絞首刑を煽るインド民主主義 : A. ロイ\(6\)](#)

6. ジーラーニ逮捕・起訴の不当性

国会襲撃事件の容疑者として逮捕された4人のうち、最も不可解なのが、デリー大学アラビア学講師ジーラーニの逮捕。15日の逮捕直後からマスコミは、「デリー大学講師はテロ計画の中心だった」、「大学教師がフェダイーン(革命戦士)の手引き」、「大学教師がテロの課外授業」などとセンセーショナルに報道した。当初、デリー警察がジーラーニ自供からアフザルを割り出したと説明していたように、ジーラーニこそがターゲット、襲撃の「首謀者(mastermind)」と想定されていたのだろう(Roy: i & iv)。

ところが、逮捕されたジーラーニは、デリー警察で激しい拷問を受け、妻・子・兄弟までも拘束され、彼らを人質に脅迫さえされたが、自供はしなかった。ジーラーニは、知識人(大学講師)であり、有能な弁護士がつき、また同僚や多くの支援者がいた。それでがんばり通せたのだろう。

一方、警察には、ジーラーニを逮捕したものの、十分な根拠がなかったことは、アフザルの弁護士宛書簡を見ると、よく分かる。12月20日の強制的マスコミ会見でのやりとりについて、アフザルはこう述べている。

「そこにはNDTV, Aaj Tak, Zee News, Sahara TVなどがきていた。ラジビール・シン(A. C. P.)もきていた。記者の一人, Shams Tahir が、議会襲撃におけるジーラーニの役割について質問した。私は、ジーラーニは無実だ、と答えた。その瞬間, A. C. P. のラジビール・シンが椅子から立ち上がり、誰(メディア)の前でもジーラーニについてはしゃべるなといったはずだ、と私を怒鳴りつけた。……それから、ラジビール・シン(A. C. P.)

は、ジーラーニに関する質問部分は消去するか公開しないようにせよ、と TV 関係者に要請した。」(“Letter to His Lawyerr”)

このように、ジーラーニを見込み逮捕したものの、デリー警察には十分な確信がなかったことは明白だ。それにもかかわらずジーラーニ起訴を強行したのは、一つには、マスコミの煽った「**人民の超ナショナリズム(hypernationalism)**」の圧力のためだった、とロイは考える。

「そのとき、デリー警察が結果を出す圧力の下にあったことは明白だ。そして結果を、警察は出した。人民の超ナショナリズム(hypernationalism)の波に乗って、警察は適法手続きも合法性も、そしてもちろん基本的な整合性も、すべて無視した。被告、特にジーラーニに関する証拠は穴だらけであり、捏造されたものさえあった。この不正な証拠により、ジーラーニは逮捕され、激しい拷問を受けた。1年間投獄され、悪夢のような死刑の重圧の下に置かれた。デリー高裁の無罪判決により、ようやく彼は釈放された。」(Roy: v)

デリー警察は、結局、ジーラーニを「首謀者」にでっち上げることには失敗したが、しかしロイによれば、警察はそれも織り込み済み、別のもっと深い策謀があったという。

「警察は、刑事裁判では判事はメディア報道そのものは考慮しないであろうことを十二分に知っていた。警察は、冷血にも捏造した『テロリストたち』のプロフィールが世論をつくり上げ、裁判にとって好都合な環境をつくり出すこと、そしてそれは法的な検証はまったく受けないであろうことをよく知っていた。」(Roy: iv)

国会襲撃をフェダイーンの犯行とする構図ができあがれば、スケープゴート(犠牲の子羊)は誰でもよいということ。アフザル自身が、こう述べている。

「警察特任隊(STF)は[私を]この犯行全体のスケープゴートにした。この犯行は、STFや私の知らない他の組織が計画し実行したものだ。警察特捜部も間違いなくこの策謀に加担している。特捜部は、いつも私に沈黙を強制したからだ。」(“Letter to His Lawyer”)

これがもし本当だとすると、権力の底知れぬ冷酷さと恐ろしさに戦慄を禁じ得ない。



■ デリー警察 HP。「テロ防止」が重点 10 目標のトップ。

谷川昌幸(C)

2013/03/08 11:42 カテゴリー: [インド](#), [司法](#), [民主主義](#), [人権](#) タグ: [カシミール](#), [テロ](#), [フェダイーン](#), [適法手続](#), [自供](#), [Roy](#), [拷問](#)

[絞首刑を煽るインド民主主義 : A. ロイ \(5\)](#)

5. 国会襲撃事件の 13 の謎

2001 年の国会襲撃は不可解な事件であり、多くの謎が未解決のまま。ロイは『12 月 13 日選集』(2006 年)への「序文」(Roy: iii)において、**13 の謎**を指摘している。いずれも、事件の核心に関わるものだ。

Q1. 12 月 13 日の襲撃の何ヶ月も前から、政府と警察は議会襲撃の恐れを指摘していた。前日の 12 日、バジパイ首相は、近く議会が襲撃されると警告さえした。もし情報機関から情報があったのなら、翌 13 日に襲撃車両が易々と議会エリアに進入できたのは、なぜか？

Q2. 襲撃後数日のうちに、デリー警察特捜部が、襲撃はジェイシェ・ムハンマドとラシュカレ・タイバの周到な共同作戦であり、IC814 ハイジャック(1999)犯人の「ムハンマド」が襲撃を指揮した、と発表した。ところが、これは法廷では立証されなかった。特捜部は何を根拠に、この発表をしたのか？

- Q3. 襲撃の一部始終を CCTV が録画しており、そこには6人の犯人が映っていたとされるが、射殺されたのは5人だけ。残りの1人はどうなったのか？ また、このビデオ映像が証拠としての法廷開示も、議会での再生も、一般への放映もされなかったのは、なぜか？
- Q4. 以上のような疑問が出されているのに、議会を休会にしてしまったのは、なぜか？
- Q5. 襲撃の数日後、政府はパキスタン関与の「疑う余地のない証拠」があると発表し、印パ国境に数十万の軍隊を動員、核戦争にさえなりかねない危機を招いた。拷問により引き出したアフザルの「自供」(最高裁は証拠採用留保)以外に、「疑う余地のない証拠」はあるのか？
- Q6. パキスタン国境への軍隊動員は襲撃のはるか以前から始められていた、というのは本当か？
- Q7. この危機対処のための軍事費は、どれくらいか？ また、この作戦による死者数や土地・家屋等の被害は、どれくらいか？
- Q8. 警察は、どの情報に基づきアフザルを犯人とし、逮捕したのか？ ジーラーニ自供によるというが、カシミール警察によるアフザル捜査開始はその自供以前。
- Q9. アフザルは投降ミリタントで、治安機関(カシミール警察 STF など)の常時監視下にあった。そのアフザルが、どうして襲撃に関与できたのか？
- Q10. ラシュカレ・タイバやジェイシェ・ムハンマドのような組織が、治安機関常時監視下のアフザルのような人物を信用し、作戦実行のための重要な役割を任せられるだろうか？
- Q11. アフザル証言によれば、警察特任隊 (STF) の下で働いていた” Tariq” という人物に紹介され、「ムハンマド」をデリーに連れて行った。警察調書にもある、この「タリク」とは、いったい何者なのか？
- Q12. 2001年12月19日、警察は、襲撃犯の一人はラシュカレ・タイバの Mohammed Yasin Fateh Mohammed (Abu Hamza) である、と発表した。しかし、ヤシンは2000年11月に逮捕され、カシミール警察拘置所に拘置されていた。そのヤシンが、どうして襲撃に参加できたのか？ もしそれがヤシンでなければ、ヤシンはいまどこにいるのか？
- Q13. 議会を襲撃した5人の「テロリスト」は、いったい誰なのか？

——ロイの指摘する「13日襲撃事件」の13の疑問を見ると、この事件がアフザル絞首刑で幕引きされてよいものではないことは明白だ。アフザルは、ケネディ暗殺事件の「オズワルド」、あるいはネパール王族殺害事件の「ディペンドラ皇太子」のような存在といってもよいであろう。闇は深い。



■ 混沌のデリー市街(2010/3/20, 本文とは無関係)

谷川昌幸(C)

2013/03/07 14:11 カテゴリー: [インド](#), [民主主義](#), [人権](#) タグ: [カシミール](#), [ジェイシエ・ムハンマド](#), [テロ](#), [ラシュカレ・タイバ](#), [自供](#), [Roy](#), [死刑](#)

[春期憲法大学講座](#)

「世界平和と核廃絶の課題——湯川秀樹の平和思想を中心として——」 出原政雄(同志社大学教授)

「安倍内閣の改憲構想と平和憲法改悪の危機」 澤野義一(大阪経済法科大学教授)

3月9日(土) 午後1時半より

[ラボール\(京都労働者総合会館\)](#)

主催: [憲法研究所](#)

2013/03/05 15:31 カテゴリー: [平和](#), [憲法](#) タグ: [安倍内閣](#), [改憲](#), [核問題](#), [湯川秀樹](#)

[絞首刑を煽るインド民主主義 : A. ロイ \(4\)](#)

4. 裁判の概要

(1) 逮捕 (2001年12月)

国会襲撃事件で逮捕・起訴されたのは、次の4人である。

▼アフザル (Mohammed Afzal Guru)

1969年カシミール生まれ。妻 Tabasum と息子。ジャム・カシミール解放戦線 (JKLF) 参加。デリー大学卒 (1994)。国境治安部隊投降 (1994) により「投降ミリタント」となる。医療品業を営み、スリナガルとデリーを往復。2001年12月15日、スリナガルの果物市場で、いとこのシャウカトとともに逮捕。

[容疑] テロ防止法 2002 (POTA), 爆発物取締法および刑法に定める罪。

[記者会見] 2001年12月20日、デリー警察が記者会見、アフザルを引き出し自供強要。



■アフザル (Times of India, Feb 9, 2013)

▼シャウカト (Shaukat Hussain Guru)

アフザルのいとこ。果物商。12月15日、スリナガルでアフザルとともに逮捕。

▼アフザン (Afsan Guru)

シャウカトの妻。アフザルとシャウカトが逃亡を凶ったと警察の主張するトラックの所有者。アフザルとシャウカトの逮捕後、逮捕される。妊娠中。刑務所内で出産。

▼ジーラーニ (S. A. R. Geelani)

デリー大学アラビア学講師。デリーで拘束され (12月14日?), その後、逮捕 (15日)。



■ ジーラーニ (Outlook, Feb 28, 2005)

(2) 起訴 (2002年5月14日)

早期結審法廷 (fast-track court) に被告4人を起訴。[罪状] テロ防止法 2002 (POTA), 爆発物取締法および刑法に定める罪。

(3) テロ防止法特別法廷(第1審)判決 (2002. 12. 18)

- ・ アフザン : 投獄5年
- ・ ジーラーニ, シャウカト, アフザル : 死刑

(4) デリー高裁判決 (2003. 10. 29)

- ・ シャウカト, アフザル : 死刑
- ・ ジーラーニ, アフザン : 無罪

(5) 最高裁判決 (2005. 8. 4)

- ・ アフザル : 死刑 (2013年2月13日午前8時, 絞首刑執行。Tihar 刑務所内埋葬)
- ・ シャウカト : 投獄10年 (素行良好により6月短縮し, 2010年12月釈放)

[死刑判決理由]

「アフザルの自供とは別に, 状況証拠を検証する。……それゆえ [かりに自供を除外しても], アフザルがこの重大な共謀犯罪の一員であったことを示すに十分なだけの状況証拠がある, と判定される。」

「本件における最も適切な刑罰が死刑であることに疑いの余地はない。第1審(事実審)裁判所と高等裁判所もそう審判した。これは, インド共和国の歴史に類例を見ない事件であり, まさしく希少な事件の中でも最も希少な事件 (rarest of rare cases) である。強力な武器と爆発物を使い, インドの多くの国民代表議員や憲法設置機関や政府職員の安全を脅かし, 治安部隊を攻撃し, もって主権的な民主主義制度を攻撃し覆そうとする——これは, 最も危険なテロ行為に他ならない。これこそ, 希少な事例の中でも最も希少な事例 (rarest of rare cases) の典型的な実例である。」

「この事件は、重大な被害をもたらし、全国を震撼させた。社会の集合的良心(the collective conscience of the society)は、襲撃犯に死刑を科すことによるのみ満足させられるであろう。テロリストや共謀犯の行為はインドの統一・統合・主権に対する挑戦であり、反逆・陰謀犯と判明した者には極刑をもって償わせる以外に方法はない。上訴人は投降ミリタント(surrendered militant)であり、国家反逆行為を繰り返した。上訴人は社会の脅威(a menace to the society)であり、その生命は絶たれねばならない。したがって、死刑判決は支持される。」

(出典) CASE OF MOHD. AFZAL (A1), Supreme Court Judgment, in *Outlook*.

(注)複雑な事件のため不正確な部分があるかもしれない。もしあれば、後日訂正する。

谷川昌幸(C)

2013/03/03 14:50 カテゴリー: [インド](#), [司法](#), [人権](#) タグ: [カシミール](#), [テロ](#), [絞首刑](#), [自白](#), [Roy](#), [死刑](#)